

新宿区第一次実行計画(素案) における東京2020 オリンピック・パラリンピック 関連事業について

●新宿区の施策体系とは

- ▶まちづくりの基本指針である「基本構想」、基本構想を受けた区の最上位である「総合計画」、総合計画に示した施策を具体の事業とした「実行計画」を、それぞれ策定しています。
- ▶基本構想及び総合計画、実行計画は、区民の参画・協働のプロセスを経て策定されています。現在、平成30年度から始まる新たな、総合計画及び第一次実行計画を策定中です。

新宿区基本構想

- ・新宿区の基本理念、めざすまちの姿、まちづくりの基本目標及び区政運営の基本姿勢を明らかにしたまちづくりの基本指針です。
- ・めざすまちの姿「『新宿力』で創造する、やすらぎとにぎわいのまち」

新総合計画を策定中

新宿区総合計画

- ・基本構想を受けた区の最上位計画です。計画の期間は10年間です。
- ・基本構想を実現するための施策の方向性を示した行財政運営の指針です。

新実行計画を策定中

実行計画

- ・総合計画に示した施策を具体の事業として計画的に実施していくための行財政計画です。
- ・平成30年度からの新しい実行計画である第一次実行計画は、平成32年度（2020年）までの3か年を期間としています。

●東京2020大会普及啓発

●東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向けた気運醸成

▶東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向け、メインスタジアムを地元を持つ区として、この大会が生涯、記憶として残る大会となるよう開催気運の醸成を図っていきます。

■年度別実施計画

30年度	31年度	32年度
<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区東京2020大会区民協議会の運営 ・東京2020大会気運醸成イベント（777日前・500日前） 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020大会気運醸成イベント ・ラグビーワールドカップ2019パブリックビューイングの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020大会気運醸成イベント（100日前） ・聖火リレー歓迎イベント ・東京2020大会パブリックビューイングの開催
事業費(千円) 9,288	14,154	14,898



※各イベントに関しては、東京2020参画プログラムの認証を得る予定です。

東京2020大会の気運醸成イベントについては、大会開催までの間、好機を捉えて展開していきます。

なお、平成29年度は、10月28日(土)に新宿コズミックセンターにて、アスリートを講師とした子ども向けスポーツ体験教室を実施します。



北澤豪



岡野雅行



三井梨紗子



岩田樹里

●東京2020大会への関心度

29年度末
75.3%

32年度末
90%



●スポーツ

スポーツ・文化活動の場を整備し、子どもから高齢者まで、また障害のあるなしに関わらず、ライフステージ等に応じて多様なスポーツ・文化活動に親しめる環境を充実していきます。また、東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、区民の気運醸成を図る事業を実施するとともに、大会終了後のスポーツ振興活性化に繋がる事業を展開します。

●スポーツコミュニティの推進

▶「新宿区スポーツ環境整備方針」の基本理念を持続的・継続的な視点を持って着実に推進していくため、区のスポーツ環境を支える各主体との連携強化を図るとともに、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を視野に入れ、子どもから高齢者まで、また障害のあるなしに関わらず、ライフステージ等に応じた多様なスポーツに親しめる機会を創出します。

■年度別実施計画

30年度	31年度	32年度
<ul style="list-style-type: none"> 子ども・成人向けスポーツ体験 10回 障害者スポーツ体験イベント(4競技程度) 1回 ボッチャ等の障害者スポーツ体験 随時 指導員養成講座 2回 トップアスリート練習見学会 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・成人向けスポーツ体験 11回 	→
事業費(千円)	13,216	13,823



かけっこ教室



ボッチャ体験

●スポーツ実施率

29年度末
57.5%

32年度末
65%

●総合運動場の整備

▶現在の戸山公園箱根山地区多目的運動広場の機能を保ちつつ、より快適に・多種目・多目的に使用できる総合的な多目的運動場としての整備検討を行います。

■年度別実施計画

30年度	31年度	32年度
<ul style="list-style-type: none"> 総合運動場の整備・検討 都との連携・協議 	→	→
事業費(千円)	—	—



●教育

東京2020大会の開催を契機として、国際理解教育や英語教育を一層充実するとともに、自国の伝統文化に対する理解を深め、グローバル社会を担う子どもたちの国際感覚を養います。

●英語キャンプの実施

▶英語だけの環境に身を置く2泊3日の英語キャンプを実施します。英語を用いた簡単なゲームやクイズを通して、楽しみながら、英語によるコミュニケーション能力の基礎を養います。

▶プログラムに新宿のまちの紹介や外国人観光客に対する道案内の仕方等を盛り込んだり、キャンプ終了後にボランティア体験等の機会を提供します。東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成を図るとともに、語学学習に対する意欲を高めます。

■年度別実施計画

	30年度	31年度	32年度
・英語キャンプの実施 (小学校5・6年生) (中学校1・2年生)	→		
事業費(千円)	10,886	11,012	11,081

●英語を用いたコミュニケーションの楽しさを実感したと回答した割合

29年度末 95% → 32年度末 100%

●伝統文化理解教育の推進

▶学校における伝統文化教育を充実させるとともに、児童・生徒が郷土である新宿に愛着をもち、伝統文化の継承や地域の発展に寄与したいと思う気持ちを育むため、小学校では講師を招き、日本の伝統文化の体験教室等を実施します。

▶中学校において、新宿ものづくりマイスター体験講座及び和楽器演奏体験を実施します。新宿区に伝わる伝統や文化を学びきっかけをつくとともに、日本の伝統文化に触れる機会を提供します。

新宿ものづくりマイスターとは…

新宿区では、区内の事業所でものづくり産業の同一業種に10年以上携わり、優れた技術・技能を持ち、かつ後進の指導を行い他の規範となる方を「技の名匠」として認定しています。



■年度別実施計画

	30年度	31年度	32年度
・伝統文化体験教室(区立小学校全29校) ・新宿ものづくりマイスター体験講座(区立中学校全10校) ・和楽器体験(区立中学校全10校)	→		
事業費(千円)	9,540	10,030	9,700

●日本の伝統文化の素晴らしさを実感したと回答した割合

29年度末 86% → 32年度末 90%

●教育

障害者に対する理解と思いやりの心を育むとともに、子どもたちのスポーツへの関心を高め、体力の向上を図ります。

●障害者理解教育の推進

▶各学校で障害者スポーツ選手との交流を交えながら障害者スポーツを体験するなど、障害者理解教育を推進します。東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とし、児童・生徒が、パラリンピック競技を通して障害への理解や障害者との共生について学ぶ機会とします。

▶大会終了後においても、障害への理解を深める教育を実施します。学年を超えて活用できる教材を用い、継続的に児童・生徒の心の成長を促します。

■年度別実施計画

30年度	31年度	32年度
・障害者スポーツ体験事業の実施 (区立学校全40校) ・障害者理解教育推進教材の作成、活用	・教材の増刷、活用	
事業費(千円) 16,384	12,100	12,100

●児童・生徒のアンケートで、障害者理解が深まったと回答した割合

29年度末
80%



32年度末
85%

●スポーツギネス新宿の推進

▶小学校及び中学校でスポーツギネス新宿を実施します。児童・生徒が運動の楽しさに触れ、自ら運動に親しむことができるよう、引き続き取り組みます。

▶記録向上等に挑戦することで、児童・生徒のスポーツへの関心と体力の向上を図ります。

■年度別実施計画

	30年度	31年度	32年度
・小学校スポーツギネス新宿の実施 (区立小学校全29校) ・中学校スポーツギネス新宿の実施 (区立中学校全10校)			
事業費(千円)	4,056	4,065	4,065

●全国体力・運動能力、運動習慣等調査で、中学校卒業後、自主的に運動したいと回答した割合

29年度末
63%



32年度末
65%

●文化

区民が誇れ、来街者が繰り返し訪れたい「賑わい都市・新宿」の実現を目指し、新宿のまちの多彩な文化歴史資源、文化芸術資源を活かして、新宿ならではの魅力を創造・発信していきます。

●新宿フィールドミュージアムの充実



▶新宿の文化資源を活用した多様な主体による文化芸術イベントを集約し、音楽・美術・演劇・伝統芸能・パフォーマンス・まち歩き・歴史探訪など、幅広いジャンルのイベントからなる「新宿フィールドミュージアム」として実施することにより、新宿のまちの魅力を創造・発信します。

■年度別実施計画

30年度	31年度	32年度
<ul style="list-style-type: none"> 新宿文化センターを活用したコアイベントの実施 文化月間（9～11月）を設定し、広く情報発信 ホームページの多言語化による情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 文化月間（7～11月）を設定し、広く情報発信 	
事業費(千円) 27,219	28,230	28,493

●新宿フィールドミュージアム

①参加団体数

29年度末
90団体/年



32年度末
120団体/年

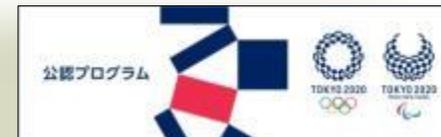
②認識度

29年度末 30%



32年度末 40%

●和を伝えるプログラム



▶東京2020オリンピック・パラリンピックとその後を見据え、外国人観光客を含む来街者を対象に、華道、茶道等の和の文化を体験できるプログラムを実施します。新宿のまちへの満足度を高めることで、繰り返し訪れたいまちづくりを進めます。

和を伝えるプログラムとは…

区内のオープンスペースにて、外国人旅行者等の来街者を対象に、英語通訳付きの華道・茶道等の体験を行うものです。



■年度別実施計画

30年度	31年度	32年度
<ul style="list-style-type: none"> 華道・茶道等の和を伝えるプログラムの実施 6回 	6回	7回
事業費(千円) 10,619	10,814	12,607

●プログラム参加者の満足度

29年度末
80%



32年度末
90%

●観光

●魅力ある観光情報の発信

▶国際観光都市としての魅力とブランド力の向上を図るため、官民一体で新宿の観光振興を担っている一般社団法人新宿観光振興協会の情報媒体を活用して観光情報を発信します。

▶新宿ならではのパブリックアートをはじめとした魅力あるスポット等の新しい観光資源や、まちの記憶である文化歴史資源、イベントやグルメ等、新宿の持つ多様な魅力を観光客の視点から発信していきます。



観光情報誌「新宿plus」▶

■年度別実施計画

30年度	31年度	32年度
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、SNSの活用 ・観光情報誌「新宿plus」の発行 22万部 ・観光情報発信拠点との連携 ・海外へのプロモーション ・区を訪れる外国人旅行者の動線分析の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・動線分析結果を踏まえた観光情報の発信 	
事業費(千円) 21,809	18,761	18,879

●新宿の観光情報への接触度 (ホームページビュー数)

29年度末 990,500PV/年 → 32年度末 1,318,500PV/年

●新宿観光案内所のサービス拡充

▶28年12月に開設した新宿観光案内所を、新宿の懐の深さや高いポテンシャルを発信する拠点にして、新宿を訪れる多くの方々に、区内の各エリアの魅力を提供します。回遊性を高め、何度も訪れたいくなる国際観光都市・新宿を目指します。

■年度別実施計画

30年度	31年度	32年度
<ul style="list-style-type: none"> ・新宿観光案内所の運営 ・AR※を活用した案内板作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内板運用 	
事業費(千円) 34,911	31,768	31,803

※AR (Augmented Reality) : 拡張現実のこと。現実世界の物事に対してコンピュータによる情報を付加すること、または、そのようにしてコンピュータによる情報が付加された世界のこと。

●観光案内所の来所者数

29年度末 23万人/年 → 32年度末 29万人/年

●観光

●新宿フリーWi-Fiの整備等

▶東京2020オリンピック・パラリンピックを見据え、訪日観光客から特に要望が多い無料公衆無線LAN環境を整備します。一般社団法人新宿観光振興協会によるポータルサイトと連携した集客力や回遊性の向上を図ることにより、オリンピック・パラリンピック終了後も、旅行者が何度でも訪れたいくなるまちづくりを進めます。

■年度別実施計画

30年度	31年度	32年度
<ul style="list-style-type: none"> 区が設置した公衆アクセスポイントの管理運用 公衆アクセスポイントの新設 3基 民間が管理している屋内アクセスポイントの設定変更 50基 プッシュ情報配信機能※・AR機能の導入・運用 	<ul style="list-style-type: none"> 公衆アクセスポイントの新設 3基 	
事業費(千円)	36,100	27,088

●新宿フリーWi-Fiに接続した利用者数

29年度末 50万人/年 → 32年度末 70万人/年

※プッシュ情報配信とは、データやコンテンツが利用者の端末に自動的に配信される方式のことをいいます。

●多彩な観光資源を活かした区内回遊の促進

▶区内のパブリックアートをはじめとした魅力あるスポット等の新しい観光資源を発掘するとともに、まちの記憶である文化歴史資源と併せて、マップ、ホームページ、広報紙等により情報発信します。

▶観光資源情報検索システムを構築・活用することにより、新宿の多彩な観光資源を活かした区内回遊を促進します。

■年度別実施計画

30年度	31年度	32年度
<ul style="list-style-type: none"> エリア別新宿観光マップの作成、配布 50万部 観光資源情報検索システムの検討 文化財説明板の英文併記 20基程度 	<ul style="list-style-type: none"> 観光資源情報検索システムの新設 55万部 観光資源情報検索システムの構築、運用 	<ul style="list-style-type: none"> 観光資源情報検索システムの新設 60万部
事業費(千円)	9,742	12,584

●観光案内標識の整備促進

▶東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、国内外からの来街者が多く訪れる新宿駅周辺や、その他主要駅周辺の歩道上等へ、観光案内標識の整備を集中的かつ計画的に進めます。

■年度別実施計画

30年度	31年度
<ul style="list-style-type: none"> 標識新規設置5基（神楽坂2基、四谷2基、高田馬場1基） 標識盤面更新3基（中井・下落合・神楽坂） 標識新規設置に向けた調整（新大久保・信濃町・飯田橋・国立競技場） 	<ul style="list-style-type: none"> 標識新規設置4基（新大久保・信濃町・飯田橋・国立競技場）
事業費(千円)	15,077

●産業

新宿のブランド力の向上と新たなものづくり人材の創出につなげ、活力ある産業が芽吹くまちを実現します。

●しんじゅく逸品の普及

▶「しんじゅく逸品マルシェ」を、一般社団法人新宿観光振興協会と連携して開催します。出展企業の商品・製品を「しんじゅく逸品」として登録するとともに、出展企業を対象とした「販売力強化セミナー」を開催し、販売力強化を支援します。

▶「しんじゅく逸品」を広く普及することにより、区内中小企業等の新たなビジネスチャンスへの支援や、区内への誘客の促進、売上拡大と地域における消費につなげていきます。併せて、地場産業団体等への支援や「しんじゅく逸品」を活かした新宿ブランドの創出に取り組んでいきます。

■年度別実施計画

30年度	31年度	32年度
<ul style="list-style-type: none">しんじゅく逸品マルシェの開催販売力強化セミナー1回新宿ブランドの開発に向けた支援	<ul style="list-style-type: none">しんじゅく逸品への登録 計40品しんじゅく逸品紹介冊子の発行しんじゅく逸品を活かした新宿ブランドの創出	<ul style="list-style-type: none">しんじゅく逸品への登録 計50品
事業費(千円) 10,091	15,062	9,832

しんじゅく逸品マルシェ2016の会場では「新宿高野」「新宿中村屋」など新宿を代表する企業の商品や、「五十番 神楽坂本店」の肉まん・「紀州梅干 味覚庵」の梅干しなど人気の商品が販売されました▶



◀地場産業である染色や印刷・製本の体験コーナーも設置しました

●「しんじゅく逸品マルシェ」来場者数

29年度末
2万人/年



32年度末
3万人/年

●環境

持続可能な資源循環型社会の構築のため、ごみ発生抑制を基本とするごみの減量とリサイクルの推進を図ります。

●資源回収の推進

▶地域住民が自主的に行う資源集団回収推進のため、資源回収実践団体への支援を実施します。資源循環型社会の構築を目指します。

▶区の資源回収を推進します。安定した資源回収の実現を図っていきます。

①古紙回収、②びん・缶（スプレー缶・カセットボンベを含む。）回収、③ペットボトル回収、④乾電池回収、⑤容器包装プラスチック・白色トレイ回収、⑥小型電子機器等回収、⑦蛍光灯回収

▶東京2020オリンピック・パラリンピックにおける小型家電から抽出したリサイクル金属を活用した入賞メダルプロジェクト事業「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」へ協力します。

このメダルプロジェクトでは、金・銀・銅合わせて約5,000個のメダルを製作する予定です。

必要な原材料は、金：約40kg、銀：約4,900kg、銅：約3,000kgとされています。

新宿区は東京都と連携し、平成29年2月から7月末までに、プロジェクト対象分として約5,600kgの小型家電を回収し、

金：約1.3kg、銀：約4.1kg、銅：約462.8kgを資源化しました。

■年度別実施計画

	30年度	31年度	32年度
・資源回収の実施 ・蛍光灯等水銀使用製品の回収、処理 ・容器包装プラスチック回収の実施			
事業費(千円)	1,233,940	1,258,614	1,294,321



※「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」は、公認プログラムとして認証されています

●区民一人一日当たりのごみ量

29年度末
583g

32年度末
556g

●資源全体に占める不燃ごみから回収した資源の割合

29年度末
0.7%

32年度末
0.6%